

# 週報

国際ロータリー第 2660 地区

令和 6 年 6 月 4 日

第 3013 例会

第 2607 号



世界に希望を生み出そう

## 豊中ロータリークラブ

広めよう ロータリーの心 地域とともに  
創立 1959 年 6 月 16 日

2023~24 年度  
国際ロータリー会長  
ゴードン R. マッキナリー  
(South Queensferry RC)

Rotary  
Toyonaka



2023.7~2024.6  
会 長 宮田幹二  
副 会 長 武枝敏之  
幹 事 原 和永  
雑誌・広報・会報委員長  
村司辰朗

本日（6 月 4 日）のプログラム  
「一年を振り返って」

副 会 長：武枝敏之  
社会奉仕委員長：藤田充男  
国際奉仕委員長：矢野 昭  
青少年奉仕委員長：松本 悟



次回（6 月 11 日）のプログラム  
「新会員自己紹介」

新会員：近 藤 忠  
大阪大学大学院理学研究科

### 会長の時間

「資産運用立国に向け、大きく方向転換できるか」

2023-24 年度 会長 宮田幹二

敗戦後の焼け跡を色濃く残した大阪市都島区で育ちました。子供の時、自宅周辺は舗装していない道路がほとんどで、車に気をつけることも無く、塀や境界の無い原っぱなどで遊び回りました。

振り返れば、日本は高度経済成長するなかで、社会には何とも言えない活気があり、工学部の大学院生も惑うことなく研究に明け暮れ、未来への明るい展望があったような気がします。1981 年西ドイツに妻とともに留学し、学生や大学、社会の雰囲気の違いに気づきました。出発前に読んだ本では、文化の違いが大きく、それを楽しめとあり、なるほどと感嘆する日々が続きました。

しかし、1989 年 1 月昭和天皇崩御、そして日本経済のバブル崩壊、ベルリンの壁崩壊と続き、世界史が大きく転換しました。個人的には、40 歳で岐阜大学への単身赴任となり、大変換の生活となりました。円高は続き、主要な企業は国外に生産を移し、国内工場は閉鎖され、氷河期の就職となりました。それでも日本は低成長ながら拡大が続き、定年後はどうか、という余裕はありませんでした。

最近、「資産運用立国」構想が打ち出されました。欧米の政策を取り入れて、老後のため日本国民は金融資産として、貯金よりも株や信託に投資しようというのです。これは、欧米企業の歴史を学ぶと、企業経営において、透明性や価値創造法の大転換を強いる可能性を秘めています。

若者世代から、十、二十年後に億万長者が続々と生まれ、奉仕と寄付の精神が当然なことになる時代がくるのでしょうか。

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内  
TEL 06-6858-1551 FAX 06-6857-0011

例 会 日 時：毎週火曜日 12 時 30 分より

事 務 局：9 時~15 時(土日祝を除く)

H P ア ド レ ス：www.sun-inet.or.jp/~jtrc2660/

メー ル ア ド レ ス：jtrc2660@sun-inet.or.jp

☆出席報告☆

	第3012回	第3009回
例会日	5月28日	4月23日
① 会員数 A	30	30
(内出席免除者)	6	6
② 出席義務者数	24	24
③ 出席義務者出席数	16	14
④ 出席免除者出席数	2	4
⑤ メイクアップ数		4
⑥ 出席義務者欠席数	6	10
出席率 %	69.23%	78.57%

出席率 (3012回) ③+④/②+④ 出席率 (3009回) ③+④+⑤/②+④

○幹事報告○

・国際ロータリー第2660地区より

「2024-25年度クラブ米山奨学委員長・カウンセラー研修会」が届きました。

「米山奨学生レクリエーション 日程決定のお知らせ」が届きました。

「【2024-25年度】ガバナー公式訪問に関する書類とお願い事項」が届きました。

🌀 掲 示 板 🌀

・一年を振り返っての卓話

副会長・社会・国際・青少年各奉仕委員長

日 時：2024年6月4日（火） 例会時

場 所：ホテルアイボリー 例会場

・2023-24年度 第12回定例理事会

日 時：2024年6月4日（火） 例会終了後

場 所：ホテルアイボリー1F「楓の間」

・新旧クラブ協議会

日 時：2024年6月4日（火） 例会終了後

場 所：ホテルアイボリー1F「楓の間」

・豊中RC創立記念日例会

日 時：2024年6月15日（土）

受 付：17：30 開始18：00 終了20：30

場 所：ホテル阪急インターナショナル 4F「花風」

・一年を振り返っての卓話 会長・幹事

日 時：2024年6月25日（火） 例会時

場 所：ホテルアイボリー 例会場

・ニコニコクイズ

日 時：2024年6月25日（火） 例会時

場 所：ホテルアイボリー 例会場

🌸6月のお祝い🌸

・入会記念日

矢口 正登 会員 H.9.6.24

今川 英紀 会員 H.20.6.3

・会員誕生日

横田 広司 会員 S.33.6.29

松尾 宗好 会員 S.18.6.10

・結婚記念日

横田 広司 会員 S.55.6.22

松本 悟 会員 H.2.6.3

藤田 充男 会員 H.1.6.11

・ご夫人誕生日

松山 会員 直美夫人 6月16日

佐川 会員 優子夫人 6月22日

😊5月28日のニコニコ箱報告😊

- ・誕生日祝いを頂いて 小寺会員
- ・結婚記念日祝いを頂いて 小寺会員
- ・家内の誕生日祝いを頂いて 小寺会員
- ・立石会員にお世話になりました。 藤田会員
- ・写真を頂いて 小寺会員
- ・欠席のお詫び 都井会員

🎵本日の唱歌🎵

豊中ロータリークラブの歌

作詞：田中 嘉助

作曲：川澄 健一

奉仕の理想にむすばれし  
 我ら豊中ロータリアン  
 家族ともどもほがらかに  
 心楽しく睦みあい  
 結ぶともがきいやかたく  
 常に栄えん 常に栄えん  
 かがやく 豊中ロータリー

唱歌担当：村司辰朗

「青少年奉仕月間に因んで」

ーポリオについてー

卓話担当：青少年奉仕委員長 松本 悟



大阪府商工労働部雇用推進室

就業促進課 課長 山本 恭一様

松本会員 山本様、佐藤様

とよの地域若者サポートステーション（一般社団法人キャリアブリッジ）

佐藤 爽矢様

「ポリオについて」

今後は、ロータリークラブの悲願であるポリオ撲滅運動を、青少年奉仕委員会の業務の一つとして欲しいとの会長からの言葉を受け、この度の青少年奉仕月間に因んだ卓話として、ポリオを取り上げました。

私自身は内科医師ですが、ポリオという病気の知識は乏しく、ロータリークラブの関わりについても認識が薄いので、これを機に少し調べさせて頂きました。

ポリオとは、急性灰白髄炎という病名で、小児まひとも呼ばれていた時期もあります。ポリオウイルスによる感染で生じる伝染病で、汚染された水や食べ物、排泄物を介して、人から人に感染します。

90%以上の方は無症状ですが、10%程度の方に多くのウイルス感染と同様、発熱・咽頭痛・倦怠感などの症状が出ます。そのうちの一部の方で、脊髄の前角細胞に障害が生じ、片側の麻痺症状が現れ、後遺症が残る方もおられます。そして、稀には延髄にも障害をきたし、呼吸筋麻痺を生じて、呼吸不全となり死に至ることもある怖い感染症です。

紀元前のエジプトのレリーフに、ポリオの後遺症である片側性麻痺の人物像が描かれています。その頃から、人類はこの感染症に苦しめられてきたようです。19世紀後半になって初めて、この疾患が明らかとなり、20世紀には世界中で流行がみられるようになりました。

ポリオ撲滅に力を注いだのはアメリカで、財団等からの資金援助もあり研究は進みました。30歳代でポリオに罹患し、片側麻痺の後遺症をもったフランクリン・ルーズベルト大統領が中心となり広げられた「March of Dimes（10セント募金運動）」は有名です。こうした背景の中、ワクチン開発に成功し、1950年代から大規模なワクチン接種運動を進め、1979年にアメリカでポリオ絶滅に至りました。

1988年には世界的なGPEI（世界ポリオ撲滅推進運動）が立ち上がりました。国際ロータリーは、それ以前の1979年に、フィリピンで600万人への大規模予防接種の事業を行ない、1985年にはポリオプラス・プログラムを立ち上げ、このGPEIのパートナーとして参画しています。

GPEI立ち上げ時には、125ヶ国35万件以上の症例数でしたが、今では常在国は2ヶ国となり、どの国でも年間数例の報告にまで減少し、根絶はすぐ近くまで迫ってきています。

ロータリークラブは、ポリオ根絶は最優先項目としており、根絶のためにすべきこととして、認識の向上、情報の発信、イベントの実施、政府へのはたらきかけ、寄付を掲げています。

青少年奉仕フォーラム

大阪府商工労働部雇用推進室、就業促進課長の山本恭一様に、「若者の働くことに関する問題について」を講演してもらいました。日本では就労していない若者が増えており、こうした若者の中には、働く意欲はあるが、踏み出せない、あるいは社会に受け入れてもらえないケースも多く、この問題は若者だけでなく、むしろ受け入れる社会にも変化が求められると話されました。

続いて、豊中で活動されている、一般社団法人キャリアブリッジ、とよの地域若者サポートステーション（サポステ）の佐藤爽矢様に、この「サポステ」の活動内容を講演してもらいました。社会に出たものの自信を喪失して、ひきこもってしまった若者に「サポステ」が支援して、徐々に社会へ復帰されていたケースなどを報告してもらい、参加して下さった会員の皆様に、「サポステ」に来ている若者達への職業見学や体験の場への協力PRをしてもらいました。